

令和3年度



学校だより
2月号

令和4年1月31日

かわかみ

横浜市立川上小学校

横浜市戸塚区秋葉町203-2 電話 811-9345 FAX811-5961

言葉を拓く ～豊かに学び合う姿を見据えて～

学校長 堀部 尚久

大寒を過ぎたこの時期、朝晩の冷え込みも厳しく、日中も厚手の上着が手放せない毎日で、寒さはまだしばらく続きそうです。早いもので、明日から2月に入り3日は節分、そして4日が二十四節気の立春です。「東風解凍（はるかぜこおりをとく）」といわれるように、この寒さの中でも春は少しずつ近くにやってきました。現在、新型コロナウイルスのオミクロン株による感染拡大が依然として続き、まだしばらくは予断を許さない状況で、本校教育活動も様々な面で変更を余儀なくされていますが、子どもたちが、明るく前向きに伸びやかに学校で学び合う姿を見せてくれることに元気をもらう毎日です。

学校では、引き続き、鼻までしっかりとマスクを着用すること、30秒間手洗いを丁寧に行うこと、室内の換気を常時行うことなどを徹底するとともに、改めて「三密の回避」を踏まえた教育活動を推進できるよう、活動内容・活動方法の工夫に努めています。保護者の皆様にも、ご家庭において感染防止への意識を子どもたちに促しながら、食事や睡眠時間等、子どもたちの規則正しい生活習慣が保てるよう、健康管理に引き続きご留意をお願いいたします。

さて、本校では学校教育目標を支える資質・能力として、これまでも縦割り活動を中心としてはぐくんできた子どもたちの「コミュニケーション能力」を見据えながら、国語科の授業を基盤とする「確かな言葉の力」の定着を意図した教育活動に取り組んできました。言葉はコミュニケーションの一つの手段と考えられますが、単に語彙が豊かであるというだけでは、心が通い合うコミュニケーションは成立しないということは言うまでもありません。他校の高学年の国語科の授業で、現代の若者の言葉づかいについて、新聞の投書や関連する本や資料をもとに話し合う授業を見る機会がありました。「言葉は進化している」「言葉は乱れている」という両者の立場からの討議（意見交流を軸とした話し合い）でした。二項対立の話し合いが続いたわけではありませんでしたが、マスク越しのグループによる話し合いでも大変活発に行われていたことに、まずは感心させられました。同時にその活発さの裏で、果たして本当にそれぞれの発言を受け止めたり、自分事としての想いや考えを真意で伝えたりする話し合いであったのだろうかという思いにもわれました。「以心伝心」、言葉ではすべてが伝わらないとしても、気持ちや心があれば「分かり合える」「伝えられる」ということも考えられます。しかしその一方で、「並大抵なことでは分かり合えないから尋ね合うことが必要」ということも確かであり、「言葉を尽くして話し合う姿」、「真意を訊ね合う姿」も、さらに大事であることに気付かされました。

そこで大切なことが、話し手の言葉の受け止め方、すなわち「きき方」であると思います。辞書的には、耳で音や声を感じることが「聞く（hear）」だとあります。耳を傾けて注意して聞き取ることが「聴く（listen）」であるとされています。話し手に向き合い、耳と心をしっかり使って聴くことがコミュニケーションの大前提です。言葉を介して話し手の想いや考えを受け止めたうえで、聞き手が言葉の真意や腑に落ちないことを「訊く（ask）」ことがコミュニケーションの質を豊かにし、高めることにつながるものと考えます。話し手としては、伝えたいことを明確にしながら、誠実に話すことが大切である一方、聴き手としては、話し手が伝えようとしている大事なことを聞き漏らさずに聞くこと、聴き手として聞きたいことや知りたいことも大事にするという聞き方です。

本校の子どもたちに求める「コミュニケーション能力」は、そのベースとして、相手の発言をどのように受け止めるかが重要であると考えます。まずは話し手の思いを汲んで温かく共感的に聴き、必要に応じて聴き手としての想いや考えを優しく尋ねる訊き方ができるよう、これからも子どもたちの日常的な言葉を拓き、豊かに学び合う姿を目指していきたいと思います。

現時点では、既にご連絡したように、「まん延防止等重点措置」解除後に、予定通り2月に授業参観・懇談会を計画しています。子どもたちのこの一年間の育ちの姿をご覧いただくとともに、新年度からの子どもたちに期待することについて、保護者の皆様との懇談が叶うよう準備を進めているところです。実施の詳細につきましては別途ご案内をいたしますので、配付文書や配信メールにてご確認ください。